

I. 私たちはみなキリストから養いを得ること、彼を取り入れること、彼を霊の食物として享受することを学ぶ必要があります:

マタイ4:4 しかし、イエスは答えて言われた、「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべての言葉によって生きる』と書かれている」。

エレミヤ15:16 あなたの言葉が見いだされて、私はそれを食べました。あなたの言葉は私にとって、心の楽しみ、また喜びとなりました。エホバ、万軍の神よ、まことに、私は、あなたの御名によって呼ばれているのです。

A. 神のエコノミーは、私たちがキリストを食べ、彼で構成されて、彼の団体の表現となることです:

ヨハネ6:57 生ける父が私を遣わされ、私が父のゆえに生きているように、私を食べる者も、私のゆえに生きる。

1. 食べることは、神の分与を経験して彼の表現となる道です。

創2:9 エホバ・神はその土地から、見て喜ばしく、食べるのに良い、すべての木を生えさせ、さらに園の中央に命の木と、善悪知識の木とを生えさせられた。

聖書の言葉を食べることは、実は、御言の中で伝達された神を食べることです。過去、神に触れることに多くの時間を費やした敬虔な人たちは、自然に、そして無意識のうちに神の分与の下にいました。神のパーソンの各面と彼の属性の各項目は、彼の分与によって・・・私たちの中へと注入されます。

2. 神のエコノミーは外側の事柄ではなく、内側でキリストが私たちの中へと入って来る事柄です。このために、私たちはキリストを食べることによって取り入れる必要があります。

エペソ3:17 またキリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように。またあなたがたが、愛の中に根ざし土台づけられ、

3. 私たちはキリストを食べ、消化し、吸収するとき、彼で構成されて、命、性質、表現において彼と同じになり、キリストのからだとしての召会を建造します。

エペソ4:16 この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わされ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです。

どのようにキリストから養いを得るかを知っているクリスチャンは多くありません。私たちは彼から養いを得ること、彼を取り入れること、彼を霊の食物として享受することを学ばなければなりません。私たちはキリストを他の人たちに供給するとき、私たち自身も彼で養われます。

B. 「主の回復とは、イエスを食べて召会を建造することの回復です」。

II. 臨在[供え]のパンの机が表徴しているのは、キリストが食物また宴席として、神の祭司としての信者たちを養うということです(出25:23-30):

出25:23 また、あなたはアカシア材の机を作らなければならない。その長さは二キュビト、幅は一キュビト、高さは一キュビト半である。24 それを純金で覆い、その周りに金の飾り縁を作らなければならない。

30 机の上には臨在[供え]のパンを置いて、常に私の前にあるようにしなければならない。

A. 机の上に陳列されたパンを食べた人はみな祭司でした。こういうわけで、机はキリストが神の祭司のための宴席であることを表徴しています。

B. 私たちは聖所の中の机に関して語るとき、幕屋の中で神の祭司として神に仕えている人について語っています。

C. 机が表徴しているのは、私たちが主に仕えるための毎週の供給としてのキリストです。

レビ24:5 また、あなたはきめの細かい小麦粉を取り、それで十二個の輪型の平らなパンを焼かなければならない。輪型の平らなパンはそれぞれ十分の二エパでなければならない。6 そして、これをエホバの御前の純金の机の上に、一列六個ずつ二列に置かなければならない。8 彼は安息日ごとに絶えずそれをエホバの御前に並べなければならない。それは、イスラエルの子たちのための永遠の契約である。

9 それは、アロンとその子たちのものとなり、彼らはそれを、聖なる場所で食べなければならない。それは、エホバの火によるささげ物のうちで、彼のための最も聖なるものであり、永遠のおきてである」。

III. 神の啓示の順序によれば、臨在[供え]のパンの机は(契約の)箱の後に来ました。これは、机が箱とつながりがあることを暗示しています:

神の啓示の順序によれば、証しの箱の後に臨在[供え]のパンの机があります。これは、机が箱とつながりがあることを暗示しています。箱は神の証しのためであり、机は私たちの養いのためです。神が証しを持たれることが必要であるだけでなく、私たちが養いを受けることも必要です。

A. 霊的な経験の中で、私たちが罪を覆う蓋としてのキリストの上で神と会い、神との交わりを享受し、彼の口から出た言葉を聞くと、箱は机となり、そこにおいて私たちは養いのある宴席を享受します(出25:10-23):

出25:10 また、彼らはアカシア材の箱を作らなければならない。その長さは二キュビト半、幅は一キュビト半、高さは一キュビト半である。

1. 箱は自然に机となります。これは、神の証しであるキリストが私たちの養いとなることを意味します。

2. キリストは神の具体化として、命の供給に満ちた机となって、私たちに養います。

ヨハネ1:14 そして言は肉体と成って、私たちの間に幕屋を張られた。それは恵みと実際に満ちていた。私たちは彼の栄光を見た。それは、父からのひとり子としての栄光であった。

3. 私たちが箱の罪を覆う蓋(私たちのなだめの場所としてのキリスト)を持つとき、最終的に箱は机となります。これは霊的経験の事実です(出25:18-23)。

出25:22 私はそこであなたと会い、罪を覆う蓋の上から、すなわち証しの箱の上にある二つのケルビムの間から、イスラエルの子たちに対してあなたに命じるすべてのことについて、あなたと語る。

経験に欠ける人たちは、私たちが語っていることを理解することができないでしょう。彼らは霊的な事柄に関する文化には外国人ですから、証しの箱が私たちの経験において臨在[供え]のパンの机となることについてのこの言語を理解することができません。それにもかかわらず、私たちが箱の罪を覆う蓋、私たちのなだめの場所としてのキリストを持つとき、最終的に箱が机となることは霊的な経験の事実です。

4. これは同一のキリストに対する経験です。このキリストは神の証しであり、神の具体化また表現です。彼は机となり、また食物ともなって、私たちは食べて享受し、養いを得ることができます。

B. 箱と机の高さはどちらも、同じ一キュビト半です。これは、キリストに対する私たちの享受が神の証しの標準に符合していなければならないことを啓示しています(出25:10,23)。

私たちは23節から、臨在[供え]のパンの机が高さ一キュビト半であったことを知ります。これは、この標準が証しの箱の標準に達していることを表徴します。仕える祭司としての私たちに対するキリストの養いは、神の証しの標準に符合しています。もしキリストに対する私たちの享受が、箱の高さによって表徴されている神の証しに達していないなら、私たちの享受は完全ではありません。それはある面で欠陥があり、標準以下です。

C. 箱は机を生み出し、机は私たちを箱に戻します。この事の意味は、神の具体化としてのキリストが、私たちを彼に対する享受の中へともたらし、彼に対する私たちの享受が常に私たちを神の証しとしてのキリストに戻すということです。

召会生活の中で、私たちは証しと養いの両方を持つべきです。…すでに見てきたように、箱も机も金で覆われたアカシア材で作られおり、両方とも同じ高さであり、両方とも足の所に金の環かんがあり、両方とも金で覆われたアカシア材の竿さおで担がれました。これらの類似は、机が箱の経験から来ることを示します。常に先に箱が机を生み出すのであって、机が箱を生み出すではありません。しかしながら、最終的に、私たちの経験ではどちらが先かを言うのは困難です。箱は机を生み出します。しかし私たちは机を経験すればするほど、ますます箱を持ちます。なぜなら、机は常に私たちを箱に戻すからです。ですから、箱は机を生み出し、机は私たちを箱に戻します。この事の意味は、神の証しの具体化としてのキリストが、私たちを彼に対する享受の中へともたらし、私たちの彼に対する享受が常に私たちを神の証しとしての彼に戻すということです。

IV. 臨在[供え]のパンの机は、幕屋の内側の聖所の中に置かれました。幕屋の内側は、神の建造された住まいとしての神の民の内側、あるいは神の民の間を表徴しています：

出40:22 次に、彼は集会の天幕の中、すなわち、幕屋の北側で垂れ幕の外側に机を置いた。

ヘブル9:2 すなわち、第一の幕屋が備えられ、その中には、燭しよくだい台と机とパンとが置かれており、それは聖所と呼ばれています。

A. 聖書の中で机は、個人的な食べ飲みではなく、団体的な食べ飲みを表徴しています。

I コリント10:16 私たちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血の交わりではありませんか？私たちがさくパン、それはキリストの体の交わりではありませんか？

机の上の臨在[供え]のパンは団体的な食べ飲みを表徴します。聖書の中で机は、常に個人的な食べ飲みではなく、団体的な食べ飲みを表徴しています。召会生活の中で、私たちは団体的に食べ飲みします。確かに、私たちは一人でいるとき、いくらかキリストの享受を持つことができます。しかしこの享受は、神の住まいの中で団体的にキリストを食べ飲みすることとは比較することができません。幕屋の中にある机の上のパンの享受は何と豊富でしょう！

B. 神の祭司の食物としてのキリストは、神の住まいの内側での団体的な食べ飲みのためです。

C. 現実的に実際的な方法で共に建造されている信者たちは、神の住まいとしての神の現在の幕屋です：

エペソ2:21 その方の中で、建物全体が共に組み合わされ、主の中にある聖なる宮へと成長していき、

22 その方の中で、あなたがたもまた共に建造されて、霊の中にある神の住まいへと至るのです。

1. 神の住まいの内側には、すなわち共に建造されている聖徒たちの内側には、机があり、その上には養うためのパンがあります。

ヨハネ14:2 私の父の家には多くの住まいがある。もしそうでなかったなら、私はあなたがたに話したであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのである。**6:33** なぜなら、神のパンとは、天から下って来て、世の人に命を与える者だからである。**35** イエスは彼らに言われた、「私が命のパンである。私に来る者は決して飢えることがなく、私の中へと信じる者はいつまでも決して渴くことはない。

2. 臨在[供え]のパンの机を享受することは、召会の建造を必要とします：

a. 私たちは神の住まいとしての召会から離れて、私たちを養う臨在[供え]のパンの机としてのキリストを享受することはできません。

b. 私たちは共に建造されている信者たちとなって、現実的で実際的な方法で、神の住まいとならなければなりません。そうすれば、この建造の内側には、臨在[供え]のパンの机があり、私たちが養いと享受を得るでしょう。

V. 臨在[供え]のパンの机は、金で覆われたアカシア材で作られました(出25:23-24)：

A. このアカシア材は、キリストの人性が、彼が私たちの宴席となるための基本要素であることを表徴しています。

B. 机を覆っていた金は、神の表現を表徴しています：

1. キリストの内側で、彼の人性は私たちの享受のための基本要素です。彼の上には、神の表現としての彼の神性があります。
2. 私たちがキリストを享受するなら、神を表現します。これが意味するのは、私たちが主イエスを神に仕えるための命の供給として享受するとき、その結果が金、すなわち神の表現としてのキリストの神性であるということです。
3. 私たちはキリストを宴席の基本要素として享受すればするほど、ますます神を表現します。

Ⅱコリント3:18 しかし、私たちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

VI. 聖所の中にある机の上のパンは、臨在[供え]のパンと呼ばれています：

出25:30 机の上には臨在[供え]のパンを置いて、常に私の前にあるようにしなければならない。

A. 机は神の御前に置かれており、すなわち神の臨在の中に置かれており、箱から遠く離れていませんでした：

1. マナは、幕屋の庭の外ですべての民によって集められましたが、神の臨在のパンは、幕屋の内側の聖所の中で、神の臨在の中にいる祭司によってのみ享受されました。

出40:22 次に、彼は集会の天幕の中、すなわち、幕屋の北側で垂れ幕の外側に机を置いた。23 そして、その上にパンを列に並べて、エホバの御前にささげた。エホバがモーセに命じられたとおりである。

ヘブル9:2 すなわち、第一の幕屋が備えられ、その中には、燭台と机とパンとが置かれており、それは聖所と呼ばれています。

2. マナは、神の民の命の供給としてのキリストを予表しており、それは彼らの生活のためです。机の上のパンは、神の祭司の命の供給としてのキリストを予表しており、それは彼らが生活することができるようにするためだけではなく、神に仕えることができるようにするためでもあります。

3. このパンが示していることは、神の民がもはや自分自身によって生きるべきではなく、彼らの命また命の供給としてのキリストによって生きるべきであるということです。

B. 出エジプト記第25章30節で「臨在」と訳されたヘブル語は、実は「御顔」を意味します：

1. 臨在[供え]のパンは御顔のパンです。これは、神の臨在、神の御顔が、仕える祭司の命の供給であることを意味します。

2. 子なるキリストの御顔は私たちの上で輝きます。彼は目に見えない神の目に見える臨在です：

民6:25 エホバが御顔をあなたの上に輝かし、あなたに対して恵み深くありますように。

エホバの御顔が私たちの上に輝き、彼が私たちに対して恵み深くあることは、神が彼の臨在の輝きとしての肉体と成ることと等しく、この輝きは恵みを伴います。主が私たちに対して恵み深くあることは、彼が絶えず私たちの恵みであることを意味します。

a. 主イエスは、神の御顔として来ました。

Ⅱコリント4:6 なぜなら、「暗やみから光が照りいでよ」と言われた神は、私たちの心の中を照らして、イエス・キリストの御顔にある神の栄光の知識を、輝かせてくださったからです。

b. 神と彼の臨在は目に見えませんが、彼の肉体と成ることを通して、彼は輝く太陽となりました。

ルカ1:78 私たちの神のあわれみ深い慈しみのゆえに、昇る太陽が高い所から私たちを訪れ、

c. この輝く太陽は、神の目に見えない臨在が目に見えるものになることです。

3. 私たちの経験の中で、神の臨在の実際は、私たちの霊の中のその霊です。その霊はまた、命のパンとしてのキリストの実際です。

Ⅱテモテ4:22 主があなたの霊と共におられますように。恵みがあなたと共にありますように。

ヨハネ6:63 命を与えるのはその霊である。肉は何の役にも立たない。私があなたがたに語った言葉は霊であり、命である。

C. 臨在[供え]のパンは、並べられたパンとも呼ばれていました：

歴代上9:32 コハテ人の子たちのうち兄弟の何人かは、パンを並べることをつかさどり、これを安息日ごとに用意した。

1. パンが特定の方法で並べられたとき、パンの陳列がありました。

2. 私たちはキリストを私たちの内側の命の供給として経験するとき、神の御前で命の供給として経験してきたキリストを陳列して、神と人への命の供給とすることができます。

Ⅱコリント4:5 というのは、私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、キリスト・イエスを主と宣べ伝え、また、私たち自身がイエスのためのあなたがたの奴隷であることを宣べ伝えるからです。

3. 私たちが新約の祭司として学ぶべきなのは、どのようにして神を礼拝するすべての人に対してキリストを臨在[供え]のパンとして陳列し、信者たちを助け、どのように聖所の中へと入るかを彼らに見せ、キリストを彼らの命の供給として経験し享受させるかということです。

Ⅰペテロ2:5 あなたがた自身も生ける石として、霊の家に建造されていきながら、聖なる祭司の体系となって、イエス・キリストを通して、神に受け入れられる霊のいけにえをささげなさい。

経験: 学生生活編

① 主との親密な交わりを持ち、養われ、証しのある学生になる: 有意義な証しのある学生生活を送るために、あなたは主とのプライベートで、親密な交わりが必要です。詩歌568番(E784)を歌ってください。

1. 主とまじわるため、れいもちいて、主の御かおたずね、臨ざいもとめる。 (復) かおおいなしに、
2. 主とまじわるため、うちをひらいて、真じつとまことで、単いつにいのる。 主を見つめつつ、かくれた
3. 主とまじわるため、れいにていのる; 信こうもてもとめ、主を待ちのぞむ。 ところで、ひたすらいのる。
4. 霊としんじつもて、主とまじわりし、れいのかんかくにしたがい、いのる。

このような、主との個人的で距離のない、親密な交わりを持つことは、あなたがなだめの場所であるキリストの中で、神の具体化であるキリスト、証しの箱の前に進み出すことです。そして、証しの箱はあなたを机の上のパンの養いに導きます。

私たちは経験の観点から箱と机の関係を考察する必要があります。私たちは、罪を覆う蓋としてのキリストの上で神と会い、神との交わりを享受し、彼の口から出た言葉を聞くとき、箱は机となり、そこにおいて私たちは養いのある宴席を享受することを経験から知っています。…これは、神の証しであるキリストが私たちの養いとなることを意味します。神の具体化として、キリストは命の供給に満ちた机となって私たちを養います。

② 学生生活は毎日が勝負である: 充実した学生生活を送るために、あなたは学生生活の一日一日に注意を払ってください。主は復活された後、「この時代の満了まで、日々私たちと共にいる」と約束してくださいました。**マタイ28:20「見よ、わたしはこの時代の満了まで、日々あなたがたと共にいる」。**

復活された主の臨在を日々経験するために、あなたは朝毎の復興に約30分費やし、養われる必要があります。み言葉を祈り読みし、主を食べ、主によって養われるとき、あなたの魂の各部分、思い、意志、感情は引き上げられ、日々の学生生活の様々な事柄を適切に対処することができるようになります。

私たちは項目ごとにすべての欠点を告白し、しばらくの間、祭壇にとどまらなければなりません。それから私たちは、私たちを清めるために贖う血を適用します。私たちがこれを行なうなら、この贖うキリストは私たちの享受であるという深い内なる感覚を持ちます。…血を適用することから、私たちは臨在[供え]のパンの机でキリストから養いを得ることに向きを変えます。そこにおいて私たちはキリストから養いを得て、彼を享受して味わいます。私たちは彼を食べるだけでなく、吸収します。…モーニング・ウオッチのための五分間か十分間では足りません。私たちの経験によれば、私たちは少なくとも三十分間を必要とします。…それは朝食を食べることに似ています。私たちは二分間か三分間で十分な朝食を食べることはできません。たとえ私たちが昼食にホットドッグを食べるとしても、五分以上必要です。…長ければ長いほど良いのです。私たちは養われて満たされるために臨在[供え]のパンの机にとどまらなければなりません。

詩歌(補充本)、207番

- いのちの木としてかみは御子あとう。
だれでも一あじわえ、しょくすによし！
しょくすによし！しょくすによし！
あじわいーあかしす、しょくすによし！
- 主は宴せきもうけ、われはしょくし生く。
宴せきの一しょくもつ、みな主ご自身。
イエス、われらのしんの宴せき。
霊にてイエースしょくし、われ生かさる。
- キリストは糧しょく、われらのパン、にく。
いのちの一きょうきゆう、日ごとしょくす。
日々、主を食べ、日々かてとし、
いのちの一きょうきゆう、日ごとしょくす。
- たのしいえんせき、ゆたかさあふれる。
みな来て一しょくせと、かみ言われる。
来たりしょくせ、えん慮せず、
みな来て一しょくせと、かみ言われる。

E1145

- 1 God gave His Son to man to be
The tree of life so rich and free,
That every man may taste and see
That God is good for food.
Yes, God is good for food!
Yes, God is good for food!
We've tasted and we testify
That God is good for food!
- 2 We eat this feast and take God in,
And as we eat we live by Him,
For all the elements within
This feast are God Himself.
Yes, Jesus is our feast!
Yes, Jesus is our feast!
We eat this feast and live by Him,
For Jesus is our feast!

- 1 神已将祂儿子赐下，作生命树无比丰富；
要叫人人一尝便知，神是我们食物。
神是我们食物！神是我们食物！
我们尝过就作见证，神是我们食物！
- 2 藉吃把主接受进去；凭主而活，并不吃力，
因为我们所吃筵席全是主的自己。
主是我们筵席！主是我们筵席！
我们吃主，因主活着，主是我们筵席！
- 3 我们所吃乃是基督—是粮，是肉，属天食物；
生命供应，营养充足，我们天天吃主！
我们天天吃主，我们天天吃主，
生命供应，营养充足，我们天天吃主！
- 4 吃这筵席，真是享福！应有尽有，极其丰富！
无论何人，凡是愿意，都可白白来吃。都可白
白来吃，都可白白来吃，无论何人，凡是愿意，
都可白白来吃。

- 3 Christ Jesus is the food we eat;
He is our bread, He is our meat;
He is our life-supply complete;
We daily eat of Him.
We daily eat of Him,
We daily eat of Him.
He is our life-supply complete;
We daily eat of Him.
- 4 This feast is so enjoyable;
To men it's so available,
For God said whosoever will
May come and freely eat.
Yes, come and freely eat;
Yes, come and freely eat.
For God said whosoever will
May come and freely eat.